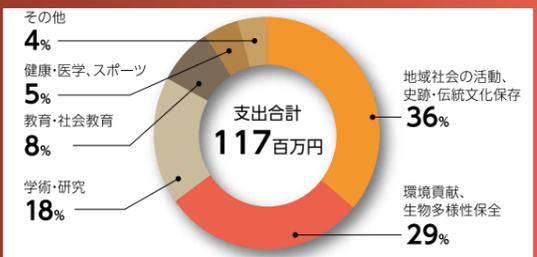


## コミュニティへの参画及び コミュニティの発展

# 地域社会との コミュニケーションの 向上に積極的に 努めています。

日軽金グループは、世界のあらゆる地域において、コミュニティの一員として広く地域社会との積極的なコミュニケーションに努め、その発展に貢献していきたいと考えています。地域の方々、環境、文化、教育、諸活動に対し、平時においても非常時においても、お役に立てる企業グループを目指しています。

### FOCUS 日軽金グループ社会貢献会計(2015年度)



### 社会貢献方針

- ・日軽金グループは、グループが持つ資源を有効に活かし、日軽金らしい社会貢献活動を通じて、地域社会の発展に貢献します。
- ・日軽金グループは、地域の文化や慣習を尊重し、地域社会と協調してその発展と向上に貢献します。また、生物多様性保全活動などを通じて、地域の環境保全にも貢献します。
- ・日軽金グループは、ものづくり教育や学術研究支援などを通じて、将来を担う次世代の人材の育成に貢献します。
- ・日軽金グループは、従業員が自発的に地域に貢献する活動に参加できるように、その支援態勢の充実に取り組めます。

### 富士登山駅伝への参加

日本軽金属(株)と東洋アルミニウム(株)は、静岡県御殿場市が主催する「秩父宮記念富士登山駅伝競走大会」に毎年参加しています。この駅伝は、御殿場駅前から御殿場ルートで富士山山頂を目指し、山頂を折り返して御殿場市陸上競技場をゴールとする、日本一過酷な駅伝競走大会といわれています。標高差 3,258m、気温差 20 度以上、高山病や落石の危険などがありますが、全国から毎年 100 チーム以上が集い、健脚を競います。

この大会が 40 回目を迎えた 2015 年は、日本軽金属(株) 32 回目、東洋アルミニウム(株) 10 回目の参加となりました。会長、社長をはじめ、本社や蒲原製造所からたくさんの応援も駆けつけ、地域の皆さんとともに大会を盛り上げました。

成績はともかく、これからも地域のイベントに積極的に参加し、地域の皆さんとの交流を大切にしていきます。



力走するランナー

### 「青山荘」一般公開

日本軽金属(株)蒲原製造所は、歴史的建造物である「青山荘」を維持・管理しています。「青山荘」は、幕末から明治期にかけて活躍した田中光顕伯爵<sup>※1</sup>の別荘であり、1946年に日本軽金属(株)が受け継ぎました。和洋折衷の白亜の洋館と呼ばれ、約 4 千坪 (13 千㎡) の土地に別邸と庭園が広がっています。家紋やすだれ模様が施された大ガラス戸など、歴史的資産も多く残されており、それらを大切に管理しています。

2015 年 11 月に、蒲原製造所設立 75 周年を記念して、一般公開を行いました。公募で集まった皆さんは、当時の雰囲気が残る応接間や、頑丈な鉄の扉で守られた寝室、書斎、内庭などを観覧され、しきりに感心されていました。

日本軽金属(株)は、これからも地域の皆さんとともに大切な歴史資産を守り、受け継いでいきます。

※1. 田中光顕(1843～1939年)：幕末に土佐勤王党に属し、維新後新政府に出仕した。会計検査院長、警視總監、学習院長、宮内大臣などを歴任した。1916年から10年かけて、青山荘を完成させた。



説明を受ける参加者の皆さん

### ものづくりワークショップへの協賛

東洋アルミニウム(株)では、電子機器や医療機器に使用する高平滑アルミ箔を製造しています。東洋アルミニウム(株)八尾製造所では、2016年3月に大阪府八尾市で開催された「ハッピーアースデイ大阪」に協賛し、その会場で行われる「ものづくりワークショップ」へ高平滑アルミ箔を提供しました。

このワークショップには親子で 100 名を超える参加者が集まり、高平滑アルミ箔を材料として、万華鏡を製作しました。参加した子供たちはでき上がったキラキラの万華鏡をのぞき見て歓声をあげるなどして、ものづくりの楽しさを体験しました。

### 熊本地震被害への支援

日軽金グループは、2016年に発生した熊本地震による被害地の復興を祈念し、日本赤十字社を通じて、1,000 万円の義援金を寄付しました。

また、グループ従業員より義援金を募り、同じく日本赤十字社を通じて 160 万円を寄付しました。

さらに、日軽産業(株)は、2016年5月31日に、日軽金アクト(株)が製造する「アルミ製給水コンテナ」5 台を熊本市上下水道局に寄贈しました。今後発生する可能性がある余震に対する備えや、防災訓練に役立てていただけるようにとの思いからで、当局総務部長より感謝の言葉をいただきました。

### 富士川流域との交流

日本軽金属(株)は、富士川水系に水力発電設備を保有しており、富士川とは密接な関わりがあるため、流域の方々との交流を積極的に行っています。

日本軽金属(株)蒲原製造所は、2016年4月に富士川の流域の保全や流域住民の交流を行っている「富士川ファンクラブ<sup>※2</sup>」より、水力発電設備に付随する沈砂池におけるゴミの回収状況について情報提供を依頼されました。

今回は、富士川ファンクラブの定期総会の後の学習会の場に招かれ、発電設備の概要と沈砂池に集まるゴミの実情について説明しました。ゴミは 15 年前に比べて半減したものの、まだ年間 20 トンもあり、特にビン類・缶類が多く回収されています。説明後には、参加者の皆さんと富士川のゴミを減らすにはどうすべきかについて意見交換を行い、これからも協力してきれいな富士川をつくっていくことを確認しました。

※2. 富士川ファンクラブ：「富士川を地域のシンボルとしてとらえ、安全な利用、水辺の環境保全、川文化の交流などを推進し、地域の生活文化の発展に寄与する」ことを目的として、1992年に結成され、現在、山梨県峡南地域の女性を中心に200余名の会員で、さまざまな活動を展開している団体。



学習会の様子

### 今後に向けて CSR推進計画(2016年度推進項目抜粋)

推進テーマ	主要行動計画	KPI
地域コミュニティとの連携	社会貢献方針の策定	